

サロン名 “あじさい” の由来

あじさいは 神戸市民の花 市民にとって身近な存在

あじさいは 土壌により花の色を変える



がんと共に生きる人が、がんと知ったあと、生活の変化に対して

自身の置かれた状況に少しずつ適応しようとする姿と重なる

あじさいは 雨が降ってもいきいきとした表情を見せてくれる

がんと共に生きる人々が、それぞれに気がかりを抱えながらも

自分らしく過ごそうとする姿と重なる

あじさいは 枯れてしまっても同じ幹からまた美しい花を咲かせる

がんと共に生きる人々が、たとえ困難な状況に心が沈んでしまっても

再び自分らしさを取り戻す姿と重なる

* * *

先のことが不安で、時には周りにわかってもらえないようなつらさを抱えることもあるでしょう。気づけばがんのことばかり考えていて、自分らしさが置き去りになっていることもあるかもしれません。

雨にうたれても一度枯れても、それでも美しい花を咲かせる“あじさい”のように、がんと共に生きる人それぞれの自分らしさを願う気持ちを“あじさい”の愛称に込めました。

患者会運用会マネージャー がん看護専門看護師 長尾綾子